

第344回
株式会社テレビ新潟放送網
放送番組審議会

- 1 開催日時 平成30年1月29日（月）午後4時30分より
- 2 開催場所 新潟グランドホテル 会議室
- 3 委員総数 8人 出席委員 6人

出席委員

豊口 協	委員長	大矢 純一	副委員長
山本 健一	委員	中島慎一郎	委員
原田 健一	委員	田村 明子	委員

会社側出席者

代表取締役社長	務台 昭彦
常務取締役 編成担当	竹石 尚史
取締役報道制作局長	永田 広道
編成局長兼番組審議会事務局長	増子 隆
報道制作局制作部長	羽田 朗
報道制作局合評番組チーフプロデューサー	竹野 和治
事務局	山崎 学 吉田 康宏

4 議 題

1) 番組合評

「消えないサイレン～糸魚川大火1年 炎の記憶～」

[放送:平成29年12月23日(土) 10:30-11:25]

(説明 : 番組プロデューサー 竹野 和治)

2) 会社報告

① 11月・12月視聴者の意見 (報告:番組審議会事務局)

② 講じた措置、公表など定例報告等 (報告:番組審議会事務局)

3) その他

5 審議の概要

会社側からは、147棟もの家屋が焼失した糸魚川大火から1年という節目に大火の教訓は活かされているか、被災者の方々は現状何に悩み、どんな生活を送っているのかを報道として伝える必要があると考え、番組化にすることにした。

大火発生から1年近く取材を続ける中で、被災者の方々が色々な意味でのストレスを抱えている事実から、被災者の方々にアンケートを実施した。回収したアンケートから想像以上に深刻な実態が浮かび上がり、大火の後遺症を抱えていることが分かった。このアンケートを軸に番組を構成した、という説明があった。

(委員の意見)

- 番組構成のバランスが取れていて、素晴らしかった。
- アンケートを実施して生の声を届けてくれたことで番組に説得力があり、丁寧な取材をしたことがよくわかった。

- 取材相手を他局とは違う切り口で選定したことは、T e N Yの独自性を出していると感じた。
- 復興という面からみると2組の被災者の動向を取材していたことは良かったが、土地に残る者、離れる者それぞれの想いを知りたいと思った。
- 被災者の苦しんでいる現状を描き切れていたと思う。
- 取材を受けた夫婦の心の葛藤が伝わってきた。家の設計図を見ている時の笑顔は忘れられなく、印象に残った。
- 教訓という面では「飛び火」のメカニズムは分かったが、今後どうするのかという点があまり描き切れていなかった。もう少し提言といった形で掘り下げて欲しかった。
- やはり火事の場面はショッキングだった。被災者の方が見たらよりショックだったと思う。
- 若い取材相手がいなかったのも、これから復興するという若い人たちの活力という場面が少なく、結果的に年配者が可哀想だという印象を残してしまったのではないかと思う。
- 前回は大火の「記録」であったが、今回は不安と混乱という「人の心」を描いているのだなと感じた。
- 被災者がお互い助け合っている姿に、すこしずつ心に平穏が戻ってきていることが表現できていたと思う。
- 次回は「街づくり」という面から番組を作ってもらいたいと思った。

6 会社側の報告

1) 放送番組に関して申し出のあった意見の概要

1 1月 …… 66件

1 2月 …… 57件

2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会(平成29年11月27日)から、昨日(平成30年1月28日)まで、総務省に届け出た訂正放送、取り消し放送はありませんでした。

7 審議機関の答申または意見(前回審議会)に対してとった措置

1) 前回第343回審議会では、「キラリ!新潟夢中人」を審議いただきました。

委員の意見は議事概要にて記者制作スタッフ、社内に周知しました。

2) 番組審議会議事録を全社員・スタッフに回覧しました。

8 今回の第344回放送番組審議会の公表

1) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支社の県内事業所に議事概要の書面を準備しています。

2) 当社のニュースで審議会の概要を放送します。

3) TeNYホームページに議事概要を掲載します。

9 参考事項(委員への配布資料)

- ・11、12月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表
- ・民間放送新聞(12/3、12/13、12/23、1/3、1/23号)
- ・BPO報告(N0.181、182、183)

以上